

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内

洛友会

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

075-753-5270

www.rakuyukai.org

コンピュータの発展と人の力

東京支部長 安田 豊

(昭48年卒)



コンピュータシミュレーションの研究
をしております。

当時のコンピュータの能力は今の
スマホの計算能力にも遠く及ば
なかったかも知れませんが、最初
は紙テープ、その後、カード入力
のコンピュータを配分予算の範囲
内で最大限使わせて頂いて(さら
に、名古屋大学プラズマ研究所の
シミュレーション専用コンピュ
ータも徹夜で駆使しながら)、たか
だか数千個のプラズマ粒子モデル
で宇宙空間における非線形イン
スタビリティなどの自然現象の解明
に向けて一生懸命に取り組んだこ
とを懐かしく思い出します。

私は、昨年6月から1年間、洛
友会東京支部の支部長を務めさ
せて頂きました。1975年に京大
を卒業して当時のKDD(現
KDDI)に入社して以来、研究
所から本社時代を通じて一環して
衛星通信、モバイル通信など無線
技術を利用した情報通信分野の研
究開発と実用化の仕事をしてきま
したが、今から40年以上前の学生
時代(学部4年(修士課程)は、
木村磐根先生の研究室で松本紘先
生(前京大総長)のご指導のもと、
宇宙空間プラズマに関するコン

になるのではないかと予測もあ
ります。映画「2001年宇宙の旅」
で描かれた宇宙船内のコンピュ
ータHALLの反乱のようなことも危
惧されています。コンピュータは
本当に人を超えてしまうのではし
ょうか?本稿では、コンピュータの
発展と人の力に関連する最近の話
題をいくつか取り上げ、私なりに
少し考察をしてみます。

人とコンピュータが将棋で対戦
すると最近ではプロでも負けること
が多くなっていますが、今年
春の電王戦(コンピュータソフト
とプロ棋士の5番勝負)では、2
対2で迎えた第5局でプロ棋士が
相手のコンピュータソフトの弱点
をついて圧勝し、結局、プロ棋士
側が3-2と勝ち越して面目を
保ったようです。「まだ人の方が
コンピュータより強い」とホッと
した方も多いと思いますが、将棋
界におけるコンピュータと人との
関係などについて、昨春秋に羽生
名人を含むプロ棋士の方々のお話
を聴く機会がありました。

それによりますと、コンピュ
ータソフトは、人(プロ棋士)はこ
の局面ではこういう手は打たない
(悪手)として最初から排除して
しまうような手も選択枝として残
して(最適計算をしたのちに)打っ
てくることがあり、結局それによ
ってプロ棋士が負けたりするそ

うです。実際、コンピュータソフ
トが勝った棋譜を人が詳しく研究
することによってまた新たな戦術
が生まれ、人と人との通常の対局
においてもそれが採用されて将棋
界がさらに盛り上がりつつあると
のことでした。コンピュータが人を
刺激してそれによって人がさらに
成長しているようにも思えます。

人の脳は、日常生活の中ではな
るべく考えずにすむように楽をし
ようとする(習慣化する)傾向が
あるとのこと、囲碁や将棋の世
界の「定石(定跡)」というのもそ
の一例かも知れません。ところが、
コンピュータは能力の範囲内での
計算の労力はいとわない(疲れを
知らない)ので、人が気が付かな
いところを冷静に分析して私達に
意外な事実を示してくれるという
ことがよくあります。一切の先入
観を排して客観的に収集した大量
のデータをもとにしたビッグデー
タ解析は、まさしくこういうこと
を期待する分野と言えます。多数
のセンサーを通信ネットワークで
結ぶIoT(Internet of Things)
とクラウド上で複数の超高性能コ
ンピュータを駆使するビッグデー
タ解析を結びつけば、瞬時に私
達の未来予測までしてくれる時代
もきそそうです。

一方で、人の脳は実は大変な能
力(記憶容量も含めて)を有して

会報のメール通知サービス

登録受付中

「印刷された会報は要らない。
パソコンで読む。環境保護に協
力する。」という会員の皆様に、
会報の発行をメールでお知らせ
するサービスを開始しました。

ご希望の方は、「会報メール
通知希望」とお名前を 洛友会
e-rakuyuu@kuekyoto-u.ac.jp
までお送りください。

合わせて、技術広報誌cue
のメール通知サービスも受け付
けております。

詳細は244号に記載されて
おります。

いるのだが、実際に私達はその能
力のほんの一部しか使っていない
というのも事実のようです。普段
は眠っていて気が付かない能力と
か感覚が、非日常の状況あるいは
環境におかれると急に目覚めるこ
とがあると云います。茂木健一郎
氏は熊野の森を訪れると目頃感じ
たことのないような感動・感覚(ク
オリア)が呼び覚まされると説い
ています。その意味では、私達に
は自分自身の能力をさらに生かし
て伸ばすための非日常的な思考や
刺激がもっとも必要というこ
とでしょうし、今の日本や若者に
欠けているのは、案外そのような

ことかも知れません。

別の話題として、ゲームなどが開発中の人工知能の発展は近年特に目覚ましく、種々のゲームなどでもコンピュータが白紙の状態から自ら学習して成長し、プロのゲーマーのスコアを軽く超える事例も増えてきたことが報告されています。また、鼻歌を少し歌っただけでそれをもとにまるごと作曲をしてくれるスマートフォン向けアプリなども人気のようです。このような、コンピュータによる自己学習とか作曲というのはいったいどこまで進むのでしょうか？私達はコンピュータが創った音楽を聴いて本当に感動できるのでしょうか？特に、音楽が大好きな私としては、音楽とか絵画のような芸術の分野でコンピュータがどこまで人にとって代わることができるのか、というのは大変気になるところです。

昨年公開された「トランセンデンス」(Transcendence)という映画は、死の際にあつた科学者の脳(意識)がコンピュータにアップロードされ、その後、自律的に驚異的な進化を遂げたこの人工知能コンピュータが次々と衝撃的な事件を引き起こし、2045年問題の恐ろしさあらためて私達に問いかけるという内容でした。実際に人の脳がコンピュータや口

ボットに組み込まれるような場合には、そもそもコンピュータと人というような対比議論が成り立たなくなる可能性もあります。これと同じようなこと(人の意志が脅威を大きくする)がすでに遠隔自動操縦のロボットとかUAV(Unmanned Aerial Vehicle)、そして最近話題のドローンとかでも起こりつつあります。

映画などでは、結局、最後に力を持つのは「人の愛とか友情」というようなストーリーになることが多いですが、実際にコンピュータを生かすのも脅威にするのもやはり人の理性や考え方次第ということになりそうです。最近はいくまで人を中心としてコンピュータをうまく利用する「Human-Centric Computing」という考え方の研究・実用化も進みつつありますが、今後のコンピュータのさらなる発展とともに、それを賢く制御できるかどうかという点において、私達「人」の責任はますます重くなると考えます。

本部だより

洛友会本部役員会報告

平成27年度役員会は、去る6月28日(日)正午より、学士会館にて、

長尾会長、4名の副会長、9支部長(代理を含む)、本部役員の合計17名の出席を得て開催されました。役員会は、昼食を済ませた後、

長尾会長の開会挨拶で始まり、荒木幹事長の司会で進められました。まず、木村先生を洛友会顧問に推挙する理由について、長尾会長から説明がありました。木村先生は洛友会事務局として、電気系教室百周年事業の準備段階から深くかかわられました。洛友会の法人化のための募金にも努力され、その拠金を基に電気系教室技術情報誌cueが発刊されることになりました。また、洛友会事務局の運営や名簿管理体制を合理化することに尽力され、本部役員会を本部総会と合わせて実施する改革、学生会員制度の創設、卒業生と学生会員の交流会の実現など、種々の新しい事業の導入に貢献されました。さらに、洛友会報の充実、洛友会報60周年記念特集号の編集などを行われました。このような20数年間にわたる洛友会の発展のための尽力に対して、洛友会顧問に推挙され、顧問就任が承認されました。

続いて、平成26年度事業報告と同決算、平成27年度事業計画と同予算案、役員の改選がそれぞれ審議承認され、総会に提案されることになりました。また、2名の推

薦会員が承認され、洛友会報の原稿依頼が承認されました。

続いて、報告事項として印刷名簿の配布について事務局から説明がありました。平成23年に事務局分室の閉鎖に伴い、事務局の運営や名簿管理体制の合理化が必要となり、名簿をオンライン化することになりました。その中で、名簿管理業者との委託契約を結び、システム管理費の支払いを踏まえ、各年度の収支バランスがとられてきました。今後、名簿の活用は原則として、ホームページからの閲覧方式となります。なお、3年ごとの名簿発行については実施しますが、印刷名簿は有償で希望者に販売することが了承されました。引き続き、支部活動の状況と将来に向けた展望が各支部から紹介され、意見交換を行いました。各々の支部も、支部の規模に応じて会員向けのさまざまなイベントを開催し、若手会員の掘り起しや会費納入率の向上にも取り組んでいます。参加メンバーの固定化・高齢化が悩みのひとつで、地方に転勤や移住した会員は是非参加してください。また、京都大学全体の地域同窓会への協力も行っています。

推薦会員

(平成27年6月28日承認)
・岡本 亮 助教
電子工学専攻
(北海道大 平18年博)
・水谷 圭一 助教
通信情報システム専攻
(東工大 平24年博)

洛友会本部総会報告

平成27年度本部総会は6月28日(日)午後、学士会館において、東京支部総会に引き続いて開催されました。会員100名程度の出席がありました。

長尾会長の開会挨拶の後、荒木幹事長の司会で、平成26年度の事業報告と決算、27年度の事業計画と予算案、役員の改選がそれぞれ承認されました。また、名簿をオンライン化し、名簿の活用は原則としてホームページからの閲覧方式とすることが説明されました。また、各支部への補助費は従前通りとすることになりました。さらに、役員の改選では、木村先生顧問就任と併せ、副会長の新旧交代、事務局長の交代などが説明されました。

報告としては、荒木幹事長の司会で、木村先生顧問就任について、長尾会長から顧問推挙の理由が説

明され、木村先生から御礼の挨拶がなされました。木村先生は、平成3年に大谷先生が会長に就任された時に、近藤先生とともに事務局として会長を支えてこられました。その後、20数年にわたって、洛友会の発展のためにご尽力されてきました。今後は、顧問の立場からご指導賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

続いて、印刷名簿の配布について、事務局から役員会での報告を踏まえた説明がありました。また、印刷名簿の有償化に伴い、1冊1500円程度で希望者に販売することが報告されました。

続いて、荒木幹事長から洛友会本部報告と、高岡幹事による電気系教室の現況紹介がなされました。荒木幹事長からは、26年度の活動事業として、洛友会主催の先輩と学生との交流会や電気系教室懇話会の様子が紹介されました。また、洛友会が後援しているエレクトロニクスサマーキャンプについて、参加している学生会員の活き活きとした様子などが紹介されました。さらに、WEB名簿管理システムやHPからの閲覧方式について、手短かに説明がなされました。高岡幹事からは、現在の京都大学の吉田キャンパスと桂キャンパスの風景がそれぞれ紹介され、また、電気系教室の組織の変

更や学生の就職状況などが報告されました。

役員の改選

平成27年度の役員は、本部総会において改選されました。再任(再)、退任(退)および新任(新)の役員は次の通りです。

顧問	昭30	木村 磐根(新)
会長	昭34	長尾 真(再)
副会長	昭49	松山 隆司(再…教室)
	昭46	小澤 秀司(退)
	昭48	安田 豊(新)
	昭46	辻村 順一(退)
	昭49	西 亨(新)
幹事	昭41	荒木 光彦(再…幹事長)
	昭48	高橋 達郎(退…事務局長)
	昭51	佐藤 亨(新…事務局長)
	昭49	高岡 義寛(再)
	昭59	修引原 隆士(再…学科長)
	昭50	北野 正雄(退)
	昭56	和田 修己(新)

会員寄稿

還暦からのフルマラソン

蘭田 徹弥

(昭51年卒・九州支部)

還暦が近くなり、定年も見えてきた矢先、もう転動はないだろうと思っていたところに、福岡から熊本への異動を命ぜられました。大体それまでも2〜3年で仕事は変わっていたので、それまで4年続けていた業務にもマンネリが見えていた時期でもありました。転勤自体は自分自身の成長のためにもいいものです。環境が変わると、心機一転、自分も変わろうとします。熊本へ転動してきて、さあ何かが変わるかと思っていた時に、熊本城マラソンの募集が行われていました。これまでマラソンの経験はなく、果たして自分にも可能か、もしかして転動を機にこれはチャレンジしてみろとの天の声かと、勝手に解釈して申し込んだものでした。



2/15熊本城マラソン ゴール

42キロというものはどのようなものか、模索の日々が始まりました。ネットで調べたり、本も読んだりして、勉強もしてみました。これまで長距離を歩く九重ナイトハイクというものには参加したことがありましたが、それでも20キロまででした。よし、一度、42キロを歩いてみよう、しかもフルマラソンのコースに沿って下見を兼ねてやってみようと思い立ちました。それは本番の2カ月前でした。朝から夕方まで8時間かけて歩いた結果は、1週間の後遺症でした。特に階段での下りが痛い。その週は何も運動できず、回復を待ちました。

本番では最初から順調に走れたわけではなく、最初のフルマラソンではコース半分で足が止まり、残りは歩かざるを得ませんでした。沿道からの声援に悔しい思いをしたものです。それから2年、途中でプランクがありながらも普段からトレーニングを重ね、やつと42・195キロを最初から最後まで同じスピードで走れるようになりました。

地道な鍛錬の成果です。体は本当に正直で、専門雑誌やベテランによると、フルを何時間でも走れるかは、普段の練習量に比例するようです。プロの谷川真理は、現役時代は毎月1,000キロ走っていたとのこと、サブフォーは毎月2000k以上走らないと達成できないように、私の場合は現在、1000kを超えた程度ですので、まだまだ。サラリーマンとしてはサブフォーは大きな目標。これを達成するためには、練習時間もなんとか確保する必要があります。

マラソン本番では、フラットな自動車道の真ん中を、信号などに止められることもなくスムーズに走ることが出来ます。最高のコンディションの中で走れます。しかし、日々のトレーニングでは、朝晩の暗い中、でこぼこのある歩道や、車の少ない場所を選んで走りますが、それでもヒヤツとしたのは、1度や2度ではありません。転んだり、つまずいたりしないこと。練習中での事故、故障、ケガは、絶対に避けねばなりません。けがでもしたら、それこそ本末転倒です。

マラソンで完走するには、抽選運も大事なようです。11月に実施された福岡マラソンは、福岡初のフル市民マラソンにもかかわらず、5倍の抽選確率となりましたが、これを突破。翌年2月の熊本城マラソンは第4回目ということで徐々に抽選倍率が高まり、2倍近くまで上昇しましたが、これもあっさりクリア。同月の東京マラソンは第9回大会でしたが、日本



2/22東京マラソン スタート

最高の人気大会ということもあり、これまで通りの高倍率で10・7倍という超難関にもかかわらず、見事にパスしました。それも初めてのエントリーでした。宝くじ等買ったことなく、運を貯めていたことが幸いしたのでしょうか。

同じ42・195キロでも、東京マラソンは全コースがフラットに近い、走りやすいコースだと思えます。新宿をスタートして、日比谷までの10キロは緩やかに下りが続きます。日比谷・銀座を基点に、品川折り返しで10キロ、浅草往復で15キロ、最後に有明の東京ビックサイトまでの残り7キロを走りますが、高層ビル街、あるいは下町のまち中などの東京中心部でそれも幅広い道を走るの、やはり走った者でないとその醍醐味は分からないものだと思います。

とても気持ちのいいものです。3万6千人の大祭典、東京マラソンは、沿道の応援も多くて、本当に「東京が一つになる」、いい大会だと思います。終点のビッグサイトで42キロまで走つてくると、

最後右折しますが、そのラスト195mにはまた特別なフィナーレが準備されていました。それまで走っていた道からは物陰になつていてゴールの状況がよく分かりませんでした。42キロで右に曲がった途端、先にはゴールの大きな門が見え、右側には大観衆。その瞬間、涙腺がゆるみました。これまで2年間の集大成、よくぞこまできた、頑張ってきた甲斐があつたというものです。

やればできるものです。加齢という言葉をよく聞きますが、ほとんどの場合、言い訳に使われる言葉ではないでしょうか。50歳のメタボから復活し再度、ヒマラヤを征服したブロスキーヤーの三浦雄一郎の書著「65歳からはじめる健康法」を読んだとき、いくつになっても体は鍛錬すれば強くなると意を強くしたものでした。

上杉鷹山の教訓で、「為せば成る 為さねばならぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」があります。私にとっても経験のないマラソンに挑戦させてくれたのは、まず環境の変化があり、これに対

し、やってみよう、目標を立ててからどうするかは後で考えようというこれまでの私の哲学でした。

マラソンは継続することにより自分の健康管理に役立ちます。体が重いと、最初から走るのが億劫になりますので、普段から食べ過ぎないようにとセーブできます。次に、国内あるいは世界のあちこちで大会が実施されているので、観光を兼ねて行くことができます。各大会の42kのコースはそれぞれよく考えられていて、普段踏み込めない場所に行き、普通は通れない道を行けるのもマラソンならではでしょう。伴侶と一緒に観光旅行でも、半日くらいのその間であれば、自分の自由行動として許してくれるでしょう。マラソンは、自分の力を試しやすく、目標も立てやすいのも特徴です。一度始めたら止められないマラソン、



2/22東京マラソン ゴール

今後もライフスポーツとして走り続けたいと思います。

ヴァイオリンのすすめ

底押 辰弥

(平23年卒・関西支部)



私は4歳頃から趣味でヴァイオリンを弾いており、かれこれ25年近く続けております。また、大学院時代からは学外のアマチュアオーケストラに入団し、卒業して社会人となった今でも週末にオーケストラでの演奏を楽しんでおります。しかし一方で、オーケストラ以外ではヴァイオリンを弾いている知り合いが少なく、趣味を共有できずに寂しい想いをしております。そこで、少しでもヴァイオリンに興味を持ってくださる人を増やすべく、趣味としてヴァイオリンを弾くことの魅力についてご紹介させて頂きます。

ヴァイオリン、と聞くと高い！というイメージをお持ちの方が多いいと思います。私も趣味でヴァイオリンを弾いているというところ「お

坊ちゃん」と勘違いされることが多いです。しかしそんなことは全くなく、詳細は後述しますが、とても経済的な趣味なのです。確かに、メディアなどで紹介される「ストラディヴァリウス」のような数億〜数十億円もする楽器はあります。しかし、これは車で例えるとフェラーリやポルシェのようなものです。趣味として楽しむのであれば高くても数十万程度で十分です。また、安いものだと数千円で買うことができます。これがピアノとなると安くても数十万円、フルートやトランペットだと数万円です。イメージと違い、ヴァイオリンはインシヤルコストがあまりかからない楽器なのです。また、木でできているので、よほど雑に扱わない限り一生使えます。古いものでは数百年前から使われている楽器もあるのです。もちろん、弦や弓の毛の張り替えといったラニングコストはかかりますが、それでも年に数千円〜数万円程度です。さらに、メンテナンスをしつかりすれば年に1回程度に抑えられます。ヴァイオリンは意外と安く長く楽しめる楽器なのです。

ところが、ヴァイオリンにも唯一やっかいな点があります。それは、音を出せるようになるまでに時間がかかるという点です。例えば、リコーダーやピアノの場合、

初めて演奏する方でも音を出すのは簡単だと思います。しかし、ヴァイオリンはまず持ち方を学ぶことから始めなくてはけません。この持ち方ですが、とても不自然な姿勢を取らないといけないので、定着するまで繰り返し練習する必要があります。ようやく持ち方を覚えたら、次は弦の押さえ方、弓の動かし方など覚えるべきことが他にもいくつもあります。独学では音を出すどころか、正しく持つことすら難しいでしょう。従って、ヴァイオリンを始めるならまずはプロのレッスンを受けることを推奨します。大抵の音楽教室にはヴァイオリンの先生がいますので、習うことは簡単です。

さて、前置きが長くなりましたが、いよいよヴァイオリンを弾くことの魅力についてご紹介いたします。まず1つめは、あこがれの曲を演奏できるということです。これは言葉では中々お伝えしにくいのですが、自分の好きな曲を弾くため、練習を重ね、ついに弾けるようになったときの達成感は何ではなかなか味わえません。2つめの魅力は、複数の人数で楽しめるということです。数名程度で演奏できる曲から、数十人で演奏できる曲もあります。一番身近な例はオーケストラです。人数が増えるほど演奏するのは難しくなります

が、繰り返し練習を重ね、全員の音が揃った時の一体感は何とも言えない快感です。

私にとってヴァイオリンを弾くことの魅力は上記2つなのですが、特にヴァイオリンを弾いていて良かったなと思いはじめたのは、アマチュアオーケストラ(以下、オケ)で演奏するようになってからです。そこで、最後にオケで演奏することの魅力についてもご紹介したいと思います。まず、一人では演奏できない大規模な曲のレパートリーが格段に増えるということです。バッハやモーツァルトといったクラシックの名曲に加え、映画やドラマなどで演奏されている曲も演奏できるようになります。加えて、団員と切磋琢磨し、演奏を楽しみながら技術を向上させることができます。さらに、オケには様々なバックグラウンドを持った団員がいるので交流の幅が広がり、音楽や音楽以外の趣味についても大学のサークルのような感覚で楽しむことができます。ヴァイオリンを弾くことは、演奏すること自体の楽しみに加え、オーケストラ等に所属することでそれ以上の楽しみを得ることに繋がるのです。

とりとめのない文章となつてしまいました。私の寄稿を読まれてヴァイオリンを手にとられる方が

が少しでもいらっしゃったら、嬉しい限りです。

会社員から大学教員になつて

尾崎 博一
(昭58年卒・北海道支部)



私は卒業後26年勤めた電機メーカーを4年前に退職して郷里の北海道に帰り、現在は江別市にある北海道情報大学で教授を務めています。早いもので教員生活も5年目に入り大分慣れてきたところ、今回、洛友会北海道支部から会報寄稿のお話がありました。以下、今勤めております大学の日常風景をご紹介します、会社員から教員になった感想などを書いてみたいと思います。

会社では長年、基幹系およびアクセス系の光ネットワーク装置の開発を担当しましたが、大学に着任してからはコンピュータネットワーク、オペレーティングシステムなどの基礎的な科目に加え、組み込みシステムの開発などを教えて

います。会社時代の知識や経験がある程度活かせるとはいえず、新しく勉強しなければならぬことも多く、着任後一、二年の間は授業の準備が非常に大変でした。私が学生の頃は、先生が黒板に書きながら講義をされるというスタイルが一般的でしたが、今はスライドをスクリーンに映して講義を進める方法が普通なので、私も半年分の講義のために数百枚のスライドを準備します。作成したスライドは学内の専用ウェブサイトに掲示し学生はいつでもアクセスできるようになっています。ですから授業でプリントを配るということはほとんどありません。北海道情報大学では昨年度から入学者全員にタブレットPCを無償貸与しており、学生は手元でスライドを見ながら講義を聴いています。電子教科書の導入も進んでおり、私の授業でも採用しています。したがって、授業の様子は昔とは大きく変わっており、まさに隔世の感があります。

学生証はICカード化され、授業が始まる前に教室のカードリーダーにピッとかがざして出欠をとります。まれにピッとやっつてどこかへ消えてしまう学生もいるので私は授業中に紙を回して出欠を取っています。小テストなどもオンライン化されて期限内であれば学生

はいつでもどこにいても受けられ、結果は自動採点されるという仕組みです。授業の模様はビデオ撮影され学生はウェブサイトアクセスすれば後から何度でも見るができます。以上を一言で言えば、すべての面で電子化が進んでいるということです。北海道情報大学は特にこうした取り組みに力を入れており、文部科学省が提出した資料の中で「きらりと光る地方の中小規模私立大学等の取組の例」全国10校の中に紹介されています(首相官邸のホームページに掲載されています)。

一方、私は昔ながらの「紙の本を読む」、「手で書く」ということも教育上非常に大切であると考え、学生には「図書館でたくさん本を読みなさい」「ノートをしっかりとして書いて覚えるようにしなさい」と指導しています。私の授業ではレポートも手書きで提出させています。レポートで思い出しましたが、最近ではファイルで提出されたレポートの剽窃をチェックするシステムもあり、こちらは授業とは別に外部、とくに海外の論文誌から査読を頼まれたときなどに利用しています。さて、教員になってよかったことをいくつか述べます。まずは時間に余裕ができて、好きな研究を進めやすくなったことです。私は

コンピュータネットワークの信頼性に興味があり研究を続けていますが、論文を書く時間が十分に与えられたことを非常にうれしく思っています。また、論文の投稿や学会発表にしても会社時代はいろいろ手続きが面倒で会社の承認がなければ投稿や発表ができませんでしたが、今はまったくの自由です。大学で個室が与えられたことも実にありがたく、周囲の雑音に煩わされることなく自分の仕事ができます。教授会その他の会議はありますが、会社時代に比べて大幅に減りました。毎日二十歳前後の若い学生と話ができることが楽しく、こうしていると精神的にあまり年をとらずに済むのではないかと思います。上役や顧客の対応に神経をすり減らすこともなくなりしました。

このように書いてくると良いことづくめのようですが、大変な面もあります。まず、常に勉強してなければならぬことです。ネットワークやコンピュータの分野は技術の進歩が特に速いため、少し勉強をおろそかにするとたちまち遅れをとり、最新とは違う古いことを教えてしまう恐れがあります。一度ある授業で講義が終わった後、学生が質問に来て「自分が調べた内容と少し違う」と指摘され、調べてみると一年ほど前に技術規格が改定され少し古い内容を話していたことに気づいたことがあります。多くの受講生のいる授業で、レポートや試験の採点をするのもなかなか大変な作業です。丁寧に見ていると全部終わるまで数日かかります。プログラムのソースコードを提出させる課題では、特に採点に時間がかかりました。

学生から専門以外のことを質問されることもあります。「先生、この漢字はどう書くのですか？」と難しい字を聞かれることもあれば、ややこしい内容を示されて「これを英語で言うとなんになりますか？」などと質問されることもあります。学生からテストされているようなものです。そのような時に「私は国語や英語の先生ではないので・・・」と答えるのも癪なので、教員になってからは他の分野も気をつけて勉強するようになりました。現在、札幌市内から地下鉄と高速バスを乗り継いで一時間ほどかけて通勤していますが、途中でいろいろな本を読んで勉強します。

講義をして、課題や試験問題をつくり、採点して成績をつける、学生からのいろいろな質問に答える、というのはなかなか大変な仕事ですが、私はもともと教えることが好きだったので今の仕事には大変満足しています。北海道情報大学の定年は68歳なので私の場合はあと14年あります。少子高齢化の中で大学を取り巻く環境は厳しさを増すばかりであり、14年後のことなどはとても想像できませんが、一生懸命やって健康で運が悪くなければ定年まで教員を務められるだろうと考えています。そのあいだ社会の役に立つ人材をひとりでも多く育てるために微力ではありますがですがこれからも努力して行きたいと思っています。

投資効果から見た修士号

岩増 弘三

(昭和28年卒)



日本、韓国およびシンガポールを含み、世界20数ヶ所で同時印刷をしているFinancial Timesは出版国の英国を特別視せずに世界の情勢を平等に報道しています。その発行部数は50万ほどでニューヨーク・タイムズの約100万部も示すように、世界で注目される新聞は小数の読者に歓迎される内容に満ちています。発行部数を競っているのは、その最後尾の読者の関心を呼ぶ記事も多くなります。FTは政治経済のみで、殺人やスポーツの記事はありません。日本に關しても東日本大震災直後に東京電力の社長が入院したと報じられていたのは、実際は、動転して社長室に閉じこもってしまったとか、自衛隊員が防毒マスクを付けて原発サイトへ駆けつけているカラー写真を掲載したりしました。いま話題のドローンも2機種が、原発被害の調査に使用されたなど、国内では発表されなかった貴重な情報が絶えず掲載されました。また2年あまり前に、FTはドローンの法的問題を取り上げ、TIME誌は数ページにわたる特集記事を掲載しました。これをベースに7ページの資料を作成し、毎月開催されている高校同窓会で2013年3月に発表しました。私は15年前から、日本を情報鎖国の国と言っています。

FTの4月13日号では、約半ページを使って、標題のタイトルの記事が紹介されています。学士号修得に要する経費と収入増との関係、年齢や地域別にまとめているので、その一部を紹介させていただきます。

The Timesが世界の大学のランキングを発表しているのに対して、FTは世界MBAランキングを発表していて、そのデータに準拠しています。その主要点は次の通りです。

- ・修士獲得後の3年間の給与増加は%と額の両方で、それ以上の年配者を上回っている。
- ・24歳以下で修士になった人は、修士前に比べて、年収が金額で6・9万ドル、割合で145%上昇した。一方、31歳以上のそれは5・6万ドルと70%である。また、27・28歳の両者の中間に修士として職に就いた人は6・7万ドルの年収増加で、修士号所得前の年収の2倍の金額である。
- ・概括的に言うと、卒業生が海外で働くとか、違った職業分野へ替わろうとも、全ての職業分野と国々で、同じパターンになっている。
- ・修士の資格は、かなりの投資額となる。授業料と必要経費に要する平均値は9万ドルである。
- ・すべての修士号希望者は投資に対する報酬を求めているが、歳とともに主な動機は違ってくる。若い人たちは、主としてサラリー・アップに引かれ、歳とともに管理能力の向上を希望するようになる。
- ・27歳から30歳は両方に期待する。
- ・修士学習プログラムは、その輝きと参加者数に関して昔ほどではないが、優れた修士コースには、

彼らの目標を達成するために、年齢も背景も違う人々を引き付けている。31歳以上のほぼ3/4は、彼らの希望を達成していて、上級の職位に抜擢されている。

―全体として、卒業生の95%は、自分達の目標を達成し、一層多くの所得を得たり、上級の管理者になつてゐることを報告している。

「図面の一部」給与増加率：アジア・オセアニア、24歳以下71%、31歳以上63%、北米、24歳以下67%、31歳以上61% etc.

後記：昨年7月号への投稿にも記載したように、人口の半分に近い大学卒を一樣に処遇するのではなく、日本の発展期のように、優秀な人材には高い処遇を与えて重要な仕事をさせるようにしないと、日本は世界でますます遅れていくと思われまゝ。(GDP/人口：2013年・シンガポール3位、日本27位)

前にも述べたように、私が昭和30年にNTTに入社した時の従業員数は16万人に対して、応募者が少なかったのではないのですが、技術系の大学卒は32名でした。当時の日本は今に比べて貧しくて、多くの優秀な若者が貧しいがために工業専門学校(大部分が新制大学になりました)止まりになっていました。これらの人々が各種の

部門で深い経験を積み、企業の各分野で頼りになる役割を果たしていました。企業側でも配慮して、これらの人の中から複数の人をトップ・ランクに常に就かせていました。

私の最後の5年は財団法人で勤務し、いまの総務省に相当する役所へ殆んど毎日出かけました。I級職(現在の総合職)合格者は1年から2年以内の任期で次々と栄転されましたが、NTTでの専門学校卒業相当の優秀な人々が課長補佐に配属されていて、生き字引的に多くの経験をベースに的確な判断をして業務実施の中心になつておられました。

いま各企業で毎年大量に採用される大学卒をどのように処遇しておられるかを知りませんが、世界の動向は修士を学士の上位に区別したり、フランスでは大学卒の上に、特別に優秀なグランゼコール卒を配置して各界のリーダーの役割を果たさせています。京大工学部が先鞭をつけた学部卒業者を積極的に修士課程へ進学させる奨励策が社会で積極的に受け入れられて、修士に対して昔に旧制大学卒に与えられたと同様な評価を与えるようにすることにより、今の世界の動向のように上部の人員配置を2段に構成すれば、いわゆる護送船団方式ではなく、優秀な人には遠慮なく大切に先端的な仕事を

どんなしてもらえて、かつての日本のように発展速度を高められるのではないかと考えたりしています。

支部だより

四国支部総会報告

平成27年5月22日(金)、高松市内の「JRホテルクレメント高松」において、第60回洛友会四国支部総会が開催されました。

本部ならびに教室から佐藤亭教授にご出席いただき、四国内からは30名の会員が集まりました。

総会は、今岡四国支部長(昭和42年卒)の挨拶で始まりま



第60回洛友会四国支部総会 H27.5.22 於 JRホテルクレメント高松

ながら深夜まで親交を深めました。

(平11年卒 山地教文) 記

関西支部総会報告

平成27年5月24日(日)、京都の新・都ホテルにおいて、関西支部総会が61名の参加を得て開催されました。

総会に先立ち、「大学組織のグループ・ダイナミックス」と題して講演会を開催しました。講演会では、京都工芸繊維大学名誉教授・岡山県立大学名誉教授の三宮信夫先生(昭和37年卒)より、公立大学がおかれてゐる厳しい現状のものと先生がどのように考え行動されているのか、学長兼理事長として岡山県立大学の法人化等でのよ

続いて、四国支部幹事から平成26年度事業報告、会計報告、平成27年度予算案について説明があり、満場一致で承認されました。

総会終了後、富田先輩(昭和23年卒)の乾杯音頭で懇親会が始まりました。先生方や久しぶりの友人と酒を酌み交わしながら歓談しているうちに、あつという間に予定の時間となり、最後に恒例となっている「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の大合唱で会を締めくくりました。

その後、有志一同は同ホテル21階のバーにて、高松の夜景を眺め



うにリーダーシップを発揮されたのか等をお話いただき、参加者にとって大変興味深い講演会となりました。

支部総会は、藤垣総務幹事の司会のもと細野支部長のご挨拶で始まり、各幹事から平成26年度事業報告ならびに決算報告があり、また平成27年度事業計画および予算編成ならびに平成27年度関西支部役員改選について審議され、満場一致で承認されました。平成27年度の新役員は、

支部長 安部川 信

副支部長 駒谷 喜代俊

総務幹事 森 望

会計幹事 糸谷 亮祐

(昭和50年卒)

(昭和52年卒)

(昭和61年卒)

(平成13年卒)

の各氏です。

支部総会に引き続いて、洛友会幹事長の荒木先生より洛友会本部の活動と電気系教室の現況などをご説明いただきました。

総会終了後は引き続き懇親会が開催されました。洛友会会長の長尾先生のご挨拶の後、木村先生に乾杯のご発声をいただきました。懇親会中は終始和やかな歓談の場となり、楽しい一時を過ごすことができました。終わりに、西台様に先導いただいて「洛友会の歌」

を全員で斉唱し、最後に西川先生より締めのご挨拶をいただいて散会となりました。

(平成20年卒 金子勝弘) 記

洛友会東北支部総会報告

平成27年5月30日(土)、仙台市内の「仙台国際ホテル」で平成27年度東北支部総会が開催されました。本部より松山隆司教授・洛友会副会長の御出席をいただき、東北支部からは5名が出席しました。

総会は井上支部長のご挨拶で始まり、議事では26年度決算報告、27年度予算案について幹事より説明があり、参加者全員の一致で承認されました。続いて松山先生より先輩と学生の交流会の様子など本部の26年度主な事業報告とともに27年度事業計画(予定)、25年



度より導入された会員専用Webサービスの概要、また、京大電気系教室の近況などについてお話しいただきました。

総会後には懇親会を行いました。東北支部の活動は毎年の総会のみですが、ほぼ出席メンバーが固定されており、一年振りに再会した中での各自の近況報告、学生時代の研究室やお世話になった先生の思い出の話、再生可能エネルギーの系統連系対策や原子力再稼働の課題、水素活用の可能性など、広く自由な雰囲気の中で議論に花が咲き、あつという間に予定の時間となりました。来年の総会での再会を約して散会となりました。

(昭和57年卒 秋山康人) 記

北陸支部総会報告

平成27年5月30日(土)金沢市の「かなざわ石亭」において、平成27年度北陸支部総会を開催しました。本部ならびに教室を代表して、高岡義寛教授をお迎えし、北陸支部からは、15名が出席しました。

支部総会前には、例年同様、講演会を開催いたしました。今回は高岡先生に「ナノクラスターイオンの生成とビーム応用」と題し、クラスターイオンの特異性ならび



報告、支部役員改選に関する議案を説明し、満場一致で承認されました。

総会終了後、記念写真を撮影し、その後、懇親会を開催しました。懇親会では、冒頭、葛原新支部長より、北陸支部は、会員規模は小さいものの和気藹々で居心地が良く、会員相互の情報交換と発展のためにご協力をお願いしたいと挨拶がなされました。引き続き、西村顧問の音頭による乾杯で幕を開け、先生方や先輩・後輩と酒を酌み交わして歓談し、楽しいひと時を過ごしました。最後に琵琶湖周航の歌を全員で合唱し、中島顧問のご発声のもと、万歳で散会となりました。

(平成10年卒 笠川隆) 記

改選された支部役員

顧問 西村 尚和 (昭23)

中島 恭一 (昭40)

(新)松本 純也 (昭44)

支部長(新)葛原 正明 (昭54)

副支部長 久和 進 (昭47)

評議員 金森 関治 (昭40)

柴田 明 (昭40院)

西念 勉 (昭46)

野村 保之 (昭52)

長谷川 俊行 (昭54)

中田 和男 (昭63)

笠川 隆 (平10)

幹事

第103回関西支部ゴルフ競技会報告

△プレー状況▽

第103回関西支部ゴルフ競技会が平成27年5月9日(土) 武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日はあいにくの曇り空でしたが、アウトは福川氏(昭和30年卒)、インは伊藤氏(昭和34年卒)の始球式でプレーを開始し、合計20名(うちシニア9名)が競技に汗を流されました。

結果は以下のとおりです。

(シニアの部)

- 優勝 大澤 靖治 (S44年卒)
- 2位 西村 登努志 (S38年卒)
- 3位 伊藤 俊一 (S34年卒)



第103回 関西洛友会ゴルフ競技会 参加者集合写真

(一般の部)

- 優勝 西田 篤史 (S63年卒)
- 2位 大久保 昌利 (S60年卒)
- 3位 谷口 充展 (H21年卒)

△懇親会▽

プレー終了後、大久保氏(S60年卒)の司会により、表彰式兼懇親会が開催されました。

表彰式では、入賞者に景品および優勝カップが手渡されたあと、入賞報告を頂くとともに、関西洛友会ならびにゴルフ競技会の更なる発展を期待するコメントを頂きました。

△お知らせ▽

洛友会関西支部では同窓生の懇親を深める機会として毎年2回(春・秋)にゴルフ競技会を開催しております。次回は平成27年10月17日(土)を予定しております。若い方も含めて、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

△連絡先▽

大久保 昌利 (S60年卒)
乾 貴行 (H20年卒)
連絡先 050-7104-5934
(乾)
inuitakayuki@a4kepcoc.jp

編集後記

7月の会報をお届けします。ご覧の通り、本部総会および各支部総会が滞りなく開催されました。いずれの支部も活性化にご苦心頂いている様子が伺えます。その

目的にもぜひ会報を有効利用頂ければ幸いです。定例の支部総会報告以外の記事や情報適用をお待ちしております。

また本部報告にありますように、今後洛友会の会員名簿はホームページからの閲覧を原則とし、紙媒体は有償となりました。本会

平成27年度懇話会開催のご案内

在校生(学生会員)と卒業生(正会員)の親睦をはかり、在校生に先輩からのメッセージを伝えて激励するために、洛友会と電気系教室との共催で懇話会を毎年開催しています。今年度は左記のように開催されますので、奮ってご参加下さるようご案内いたします。詳しいプログラムは、次回会報とホームページにてお知らせいたします。

記

日時 平成27年11月6日(金) 14時30分～19時30分
場所 吉田キャンパス電気総合館大講義室
懇親会 生協北部食堂2階

プログラム(予定) ..

- 14時30分 開会挨拶(電気電子工学科科長 引原隆士教授)
- 14時40分 中村行宏先生(京都大学名誉教授)
- 15時30分 手柴 充博氏(株)ウェザーニューズ 研究員・平11年卒
- 16時20分 休憩
- 16時30分 安部川 信氏(新関西国際空港(株)専務取締役・昭50年卒)
- 18時00分 懇親会(生協北部食堂2F)
(会費: 社会人3,000円、学生無料)

連絡先 電気電子工学科事務室

電話 075-753-5273
FAX 075-753-5271
Eメール konwa-ka@kuee.kyoto-u.ac.jp

計報

報もバックナンバーを含め、ホームページから全文をご覧頂けます。こちらも併せてご活用をお願いします。ホームページへの情報掲載のご希望がありましたら、事務局までお知らせ下さい。

事務局 記

昭8	川端 太郎	26	10	25
昭18	藤井 亮	25	12	3
昭24	永見 晴彦	27	3	8
昭25	原 豊明	26	10	17
昭26	立川 昭三	25		
昭28	井垣 嘉生	26	12	23
昭28	田川 康夫	24	5	7
昭29	森 幹夫	26	8	16
昭30	宇野 潤三	26	10	1
昭30	竹内 哲	27	6	9
昭31	粕渕 健	26	12	5
昭31	岸尾 裕之	26		
昭34	中川 雅善	27	1	13
昭34	橋本 清	27	4	30
昭36	平山 博英	23	9	
昭37	浅田 寿生	26		
昭42	川崎 洋吾	26	4	17
昭42	二ツ寺政臣	27	3	5
昭43	湯浅 明丸	26	4	9
昭43	渡辺 誠	26	12	17
昭43	天野 隆喜	27	1	30
平3	清家 明人	27	4	25
平13	山本 博一	24	5	18

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。